

平成27年度

全国学力・学習状況調査

北広島市の調査結果（報告）



北広島市イメージマスコット「エルフィン」

北広島市教育委員会

平成27年10月

目次

I 今年度調査の概要・内容	4
(1) 調査目的	4
(2) 調査対象	4
(3) 調査の方式	4
(4) 調査の内容	4
(5) 調査実施日	5
(6) 調査を受けた児童生徒数	5
II 調査結果分析の留意点	6
(1) 調査結果についての留意点	6
(2) 調査結果の掲載方法について	6
(3) 調査結果の表示について	6
III 市内小学校の結果概要	7
(1) 教科全体の状況	7
(2) 国語Aの全体的傾向	8
(3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題	9
(4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題	9
(5) 国語Aにおける無解答率について	9
(6) 国語Bの全体傾向	10
(7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題	10
(8) 国語Bにおける無解答率について	10
(9) 算数Aの全体的傾向	11
(10) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題	11
(11) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題	12
(12) 算数Aにおける無解答率について	13

- (13) 算数Bの全体的傾向・・・・・・・・・・13
- (14) 算数Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・13
- (15) 算数Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・14
- (16) 算数Bにおける無解答率について・・・・・・・・14
- (17) 理科の全体的傾向・・・・・・・・・・15
- (18) 理科において平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・16
- (19) 理科において平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・16
- (20) 理科における無解答率について・・・・・・・・17

IV 市内中学校の結果概要・・・・・・・・・・18

- (1) 教科全体の状況・・・・・・・・・・18
- (2) 国語Aの全体的傾向・・・・・・・・・・19
- (3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・20
- (4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・20
- (5) 国語Aにおける無解答率について・・・・・・・・20
- (6) 国語Bの全体傾向・・・・・・・・・・21
- (7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・21
- (8) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・22
- (9) 国語Bにおける無解答率について・・・・・・・・22
- (10) 数学Aの全体的傾向・・・・・・・・・・22
- (11) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・23
- (12) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・24
- (13) 数学Aにおける無解答率について・・・・・・・・24
- (14) 数学Bの全体的傾向・・・・・・・・・・24
- (15) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・25
- (16) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・25
- (17) 数学Bにおける無解答率について・・・・・・・・26

- (18) 理科の全体的傾向・・・・・・・・・・26
- (19) 理科において平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・27
- (20) 理科における無解答率について・・・・・・・・28

V 質問紙調査の結果概要・・・・・・・・・・29

- (1) 小学校児童質問紙調査の結果から・・・・・・・・29
- (2) 中学校生徒質問紙調査の結果から・・・・・・・・32
- (3) 学校質問紙調査の結果から・・・・・・・・34

VI クロス集計の結果概要・・・・・・・・・・35

- (1) 小学校児童クロス集計の結果から・・・・・・・・35
- (2) 中学校生徒クロス集計の結果から・・・・・・・・36

VII 総評・・・・・・・・・・37

- (1) 小学校学力調査の結果から・・・・・・・・37
- (2) 中学校学力調査の結果から・・・・・・・・37
- (3) 小学校質問紙調査の結果から・・・・・・・・38
- (4) 中学校質問紙調査の結果から・・・・・・・・38
- (5) 今後の北広島市としての取組・・・・・・・・38

全国学力・学習状況調査

北広島市の調査結果（報告）

I 今年度調査の概要・内容

（１）調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下の①、②の取組を通じ、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

（２）調査対象

- ・小学校6年生
- ・中学校3年生

（３）調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は、「悉皆（しっかい）調査」です。

*悉皆調査は「全数調査」とも呼ばれ、集まったデータすべてをもれなく分析する調査のことです。

（４）調査の内容

① 教科に関する調査（テスト）

平成27年度は、小学6年生は国語、算数及び理科、中学3年生は国語、数学及び理科の3教科で実施され、各教科で「A」と「B」の2種類の調査が行われました。なお、理科については、主として「A」と「B」に関する問題を一体的に問う問題として行われました。

A（主として「知識」に関する問題）
・身につけておかなければならない後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など
B（主として「活用」に関する問題）
・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力
・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査（アンケート）

児童生徒一人一人を対象にした調査と、各小中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査
・学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 など
学校に対する調査
・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件整備の状況等の調査 など

(5) 調査実施日

平成27年4月21日（火）

(6) 調査を受けた児童生徒数

① 小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
北広島市	597	596	597	596	596
北海道	42,068	42,068	42,066	42,041	42,049
全国	1,061,264	1,061,264	1,061,301	1,061,063	1,060,792

（単位：人）

② 中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
北広島市	539	540	540	538	540
北海道	40,966	40,962	40,965	40,942	40,952
全国	1,016,451	1,016,575	1,016,737	1,016,548	1,016,572

（単位：人）

* 「北海道」の児童生徒数は公立学校のみ

* 「全国」の児童生徒数は国立・公立・私立学校の合計

II 調査結果分析の留意点

(1) 調査結果についての留意点

全国学力・学習状況調査は、国語、算数・数学、理科の3教科について実施し、また設問は各教科のすべての領域や内容を含んでいません。したがって、調査結果から捉えることができるのは、児童生徒が身につけるべき学力の一部であり、また各学校で行われている教育活動の一部を見ることであることに留意してください。

(2) 調査結果の掲載方法について

「教科に関する調査」における平均正答率の数値については、本調査の目的及び実施要領中の配慮事項に鑑みて、公表いたしません。

(3) 調査結果の表示について

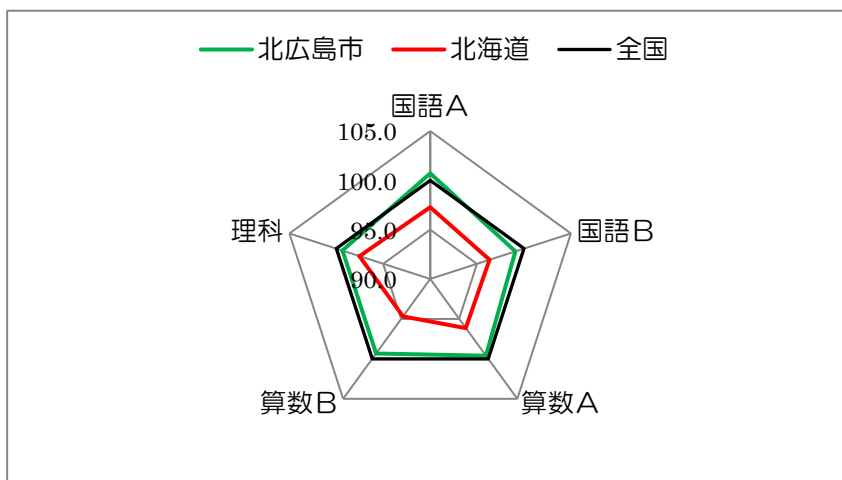
全国の平均正答率との比較を、文言で表記します。

全国平均正答率とのポイント差	表記
+9ポイント以上	高い
+3ポイント以上+9ポイント未満	やや高い
±3ポイント未満	同様
-3ポイント以下-9ポイント未満	やや低い
-9ポイント以下	低い

Ⅲ 市内小学校の結果概要

(1) 教科全体の状況

■全国平均正答率を100としたときの本市及び北海道の平均正答率



【全国平均正答率，全道平均正答率と本市小学校平均正答率との比較】

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
国語A	70.0%	同様	68.1%	同様
国語B	65.4%	同様	63.0%	同様
算数A	75.2%	同様	72.3%	同様
算数B	45.0%	同様	42.6%	同様
理科	60.8%	同様	59.3%	同様

【分析】

☆小学校の平均正答率は，すべての教科において，全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成27年度の調査では，本市小学校では，「全国と同様な状況」です。

【資料 標準化得点の推移】

全国平均正答数を 100 として，本市の正答数を表記した値を標準化得点と言います。

年度	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
24年度	99	100	100	99	99
25年度	99	99	99	99	99
26年度	101	99	100	99	99
27年度	101	98	100	98	99

(2) 国語Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
話すこと・聞くこと	53.0%	同様	47.4%	同様
書くこと	86.0%	同様	84.0%	同様
読むこと	55.2%	やや高い	55.0%	やや高い
伝統的な言語文化と国語と の特質に関する事項	77.2%	同様	75.0%	同様
話す・聞く能力	53.0%	やや低い	47.4%	同様
書く能力	86.0%	同様	84.0%	同様
読む能力	55.2%	やや高い	55.0%	やや高い
言語についての知識・理 解・技能	77.2%	同様	75.0%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等，青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆国語A（主として知識）の平均正答率は、「読むこと」が全国平均正答率との差が＋3ポイント以内です。平成27年度の調査では、本市小学校では、「全国と同様な状況」です。

☆漢字を書く（びょういんに行く）では、「病院」を書けなかった傾向がやや高いです。

- 学習指導要領の領域等では、「読むこと」では、全国、全道ともに比して「やや高い」結果です。
- その他の領域等では、いずれも全国、全道ともに「同様」な結果です。
- 評価の観点では、「話す・聞く能力」が全国に比して「やや低い」結果で、全道に比して「同様」な結果です。
- 「読む能力」では、全国、全道ともに比して「やや高い」結果です。その他の観点等では、いずれも全国、全道に比して「同様」な結果です。

(3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1二2	漢字を書く (鳥の <u>す</u> を観察する)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや高い	76.5%
5二	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える	読むこと	高い	19.8%
7	応募のきまりを守っていないものを選択する	作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る	読むこと	やや高い	73.9%

(4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1二2	漢字を書く (<u>ビョウイン</u> に行く)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	74.9%
2一	文の主語として適切なものを選択する	文の中における主語を捉える	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	53.1%
3	聞き方の説明として適切なものを選択する	話の内容に対する聞き方を工夫する	話すこと・聞くこと	やや低い	53.1%

(5) 国語Aにおける無解答率について

- 国語Aにおける無解答率は、すべての問題において全国を下回り、低い結果でした。
- とりわけ、設問番号「5二」（コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く）では、全国は無解答率 7.7%を大きく下回っています。

注) 「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

(6) 国語Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
書くこと	61.1%	同様	58.4%	同様
読むこと	68.1%	同様	65.4%	同様
国語へ関心・意欲・ 態度	55.4%	同様	52.1%	同様
書く能力	61.6%	同様	58.4%	同様
読む能力	68.1%	同様	65.4%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆国語B（主として活用）の平均正答率は、全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成27年度の調査では、本市小学校では、「全国と同様な状況」です。

☆出題に依りて、文章をまとめること、自分の考えを記述することに課題があります。

- 学習指導要領の領域等では、いずれも全国、全道ともに比して「同様」な結果です。
- 評価の観点では、いずれも全国、全道に比して「同様」な結果です。

(7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領 の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2三	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	書くこと 読むこと	やや低い	41.6%

注) 平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題はありませんでした。

(8) 国語Bにおける無解答率について

- 国語Bにおける無解答率は、すべての問題において全国を下回り、低い結果でした。
- とりわけ、設問番号「2二」（文章の要旨をまとめて書く）、「2三」（楽器の分担の決め方について、楽器の【分担図】を基にして書く）、「3二」（〈絵3〉

の場面が始まるまともりとして適切なものを選択する)では、全国の無解答率を大きく下回っています。

注)「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

(9) 算数Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
数と計算	80.1%	同様	77.0%	同様
量と測定	71.3%	同様	66.5%	同様
図形	64.5%	同様	66.5%	同様
数量関係	84.9%	同様	83.6%	同様
数量や図形についての技能	77.2%	同様	72.9%	やや高い
数量や図形についての知識・理解	73.6%	同様	71.7%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆算数A(主として知識)の平均正答率は、ほぼ全国平均正答率並みです。

☆分度器の目盛りを読むことには、課題があります。

- 学習指導要領の領域等では、すべての項目で、全国、全道ともに比して「同様」な結果です。
- 評価の観点では、「数量や図形についての技能」が全道に比して「やや高い」結果です。その他の観点等では、いずれも全国、全道に比して「同様」な結果です。

(10) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
5(2)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める	円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる	図形	やや高い	64.5%

(11) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
4(2)	分度器の目盛りを読み、180度より大きい角の大きさを求める	180度や360度を基に分度器を用いて、180度よりも大きい角の大きさを求めることができる	図形	低い	58.0%

(12) 算数Aにおける無解答率について

□ 算数Aにおける無解答率は、すべての問題において全国を下回り、低い結果でした。

注) 「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

(13) 算数Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
数と計算	42.4%	やや高い	40.7%	やや高い
量と測定	41.7%	同様	39.0%	同様
図形	45.6%	同様	43.9%	同様
数量関係	43.0%	やや低い	38.2%	同様
数学的な考え方	35.3%	同様	32.3%	同様
数量や図形についての技能	58.7%	同様	55.4%	やや高い
数量や図形についての知識・理解	74.9%	やや高い	75.0%	やや高い

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆算数B（主として活用）の平均正答率は、ほぼ全国平均正答率並みです。

☆「作図の方法」，「概数」に関する問題では、全国平均正答率を上回っています。

☆一方で、「割合や単位量当たりの大きさの活用」に関する問題では、課題があります。

- 学習指導要領の領域等では、「数と計算」が全国、全道ともに比して「やや高い」結果です。また、「数量関係」が全国に比して「やや低い」結果です。その他の領域等では、いずれも全国、全道に比して「同様」な結果です。
- 評価の観点では、「数量や図形についての技能」が全道に比して「やや高い」結果です。「数量や図形についての知識・理科」が全国、全道に比して「やや高い」結果です。その他の観点等では、いずれも全国、全道に比して「同様」な結果です。

(14) 算数Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領 の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1 (2)	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している	図形	やや高い	54.6%
4 (2)	切り上げて計算した結果が、10000であることから分かることを選ぶ	切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断できる	数と計算	やや高い	62.0%

(15) 算数Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領 の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2(1)	トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、そのときの代金を書く	単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求めることができる	量と測定 数量関係	やや低い	64.8%
2(2)	20%増量した商品の内容量が480mlであるとき、増量前の内容量を求めることができる	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる	数量関係	やや低い	13.1%
2(3)	示された割引後の商品の値段の求め方の中から誤りを見出し、正しい求め方と答えを書く	示された割引後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる	数量関係	やや低い	51.0%
3(2)	合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、②の角が30度になるわけを書く	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、②の角が30度になる理由を記述できる	図形	やや低い	49.4%

(16) 算数Bにおける無解答率について

□ 算数Bにおける無解答率は、すべての問題において全国と同様な結果でした。

注) 「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

(17) 理科の全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
A区分 物質	57.4%	やや高い	58.2%	やや高い
A区分 エネルギー	65.6%	同様	63.3%	同様
B区分 生命	61.2%	同様	58.8%	同様
B区分 地球	57.8%	同様	54.9%	同様
科学的な思考・表現	60.5%	同様	58.2%	同様
観察・実験の技能	55.5%	同様	56.5%	やや高い
自然事象についての知識・理解	68.6%	やや高い	66.7%	やや高い

注) 黒字は学習指導要領の領域等, 青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆理科の平均正答率は、ほぼ全国平均正答率並みです。

☆「振り子の規則性」, 「メダカの雌雄を見分ける 飼育や観察」に関する問題では、課題があります。

- 学習指導要領の領域等では、「物質」が全国、全道ともに比して「やや高い」結果です。その他の領域等では、いずれも全国、全道に比して「同様」な結果です。
- 評価の観点では、「観察・実験の技能」が全道に比して「やや高い」結果です。「自然現象についての知識・理科」が全国、全道に比して「やや高い」結果です。その他の観点等では、いずれも全国、全道に比して「同様」な結果です。

(18) 理科において平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
3(4)	示された器具(メスシリンダー)の名称を書く	メスシリンダーの名称を理解している	物質	高い	70.7%
4(5)	水が水蒸気になる現象についてその名称を書く	水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	地球	やや高い	68.5%

(19) 理科において平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1(2)	振り子時計の進み方を調整する内容を選ぶ	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できる	エネルギー	やや低い	61.2%
2(1)	メダカのみすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ	メダカの雌雄を見分ける方法を理解している	生命	やや低い	78.0%
2(2) よし子	生命の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を選ぶ	生命の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる	生命	やや低い	76.3%
3(6)	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる	物質	やや低い	28.9%

4 (1)	方位についての情報から、観察している方位を選ぶ	方位を判断するため、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる	地球	やや低い	41.0%
4 (2)	夕方にみられる月の形と場所を選ぶ	月は1日に時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解している	地球	やや低い	56.1%
4 (4)	観察した星座や雲の動きを選ぶ	星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析できる	地球	やや低い	65.0%

(20) 理科における無解答率について

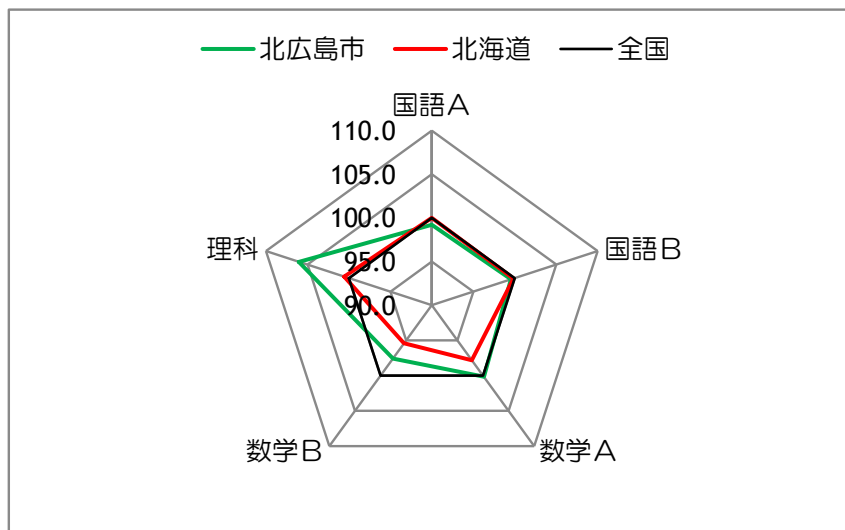
□ 理科における無解答率は、すべての問題において全国に比してやや低いか同様な結果でした。

注) 「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

IV 市内中学校の結果概要

(1) 教科全体の状況

■全国平均正答率を100としたときの本市及び北海道の平均正答率



【全国平均正答率、全道平均正答率との本市小学校平均正答率との比較】

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
国語A	75.8%	同様	75.8%	同様
国語B	65.8%	同様	65.7%	同様
数学A	64.4%	同様	63.0%	同様
数学B	41.6%	同様	39.7%	同様
理科	53.0%	やや高い	53.3%	同様

【分析】

- ☆中学校の平均正答率は、理科において、全国平均正答率を3%以上上回っています。
- ☆国語A、国語B、数学A、数学Bにおいて、全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成27年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

【資料 標準化得点の推移】

全国平均正答数を100として、本市の正答数を表記した値を標準化得点と言います。

年度	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
24年度	100	101	100	100	100
25年度	99	99	100	99	
26年度	98	99	98	99	
27年度	99	100	100	98	107

(2) 国語Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
話すこと・聞くこと	79.7%	同様	79.8%	同様
書くこと	73.6%	同様	74.3%	同様
読むこと	86.1%	やや高い	85.4%	同様
伝統的な言語文化と国語と の特質に関する事項	72.9%	同様	72.9%	同様
話す・聞く能力	79.7%	同様	79.8%	同様
書く能力	73.6%	同様	74.3%	同様
読む能力	86.1%	同様	85.4%	同様
言語についての知識・理 解・技能	72.9%	同様	72.9%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆国語A（主として知識）の平均正答率は、「読むこと」が全国平均正答率との差が＋3ポイント以内です。平成27年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

☆漢字を書く（アマったお金を貯金する）では、「余った」を書けなかった傾向がやや高いです。

☆「適切な語句を選択する問題では、全国に比してやや低いです。

- 学習指導要領の領域等では、「読むこと」で、全国に比して「やや高い」結果です。
- その他の領域等では、いずれも全国、全道ともに「同様」な結果です。
- 評価の観点では、すべての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。

(3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
6ー	「あす」と「あした」という言葉の意味の変化を整理した表に当てはまる言葉として、適切なものを選択する	目的に応じて要旨を捉える	読むこと	やや高い	71.3%
7ー	二つの回答案の構成の違いを説明したものとして適切なものを選択する	伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える	書くこと	やや高い	70.6%
7二	要望を適切に捉え、回答案の冒頭に一文を加える	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	書くこと	やや高い	66.4%

(4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
9三エ	適切な語句を選択する(彼女は、学級の縁の下の力持ちと言える存在だ)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	70.8%

(5) 国語Aにおける無解答率について

- 国語Aにおける無解答率は、概ねすべての問題において全国に比して同様な結果でした。
- 設問番号「9ー3 漢字を書く(アマったお金を貯金する)」の無解答率は、全国に比してやや高い結果でした。

注)「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

(6) 国語Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
話すこと・聞くこと	72.2%	同様	72.6%	同様
書くこと	36.7%	同様	37.5%	同様
読むこと	62.6%	同様	62.3%	同様
国語への関心・意欲・態度	36.7%	同様	37.5%	同様
話す・聞く能力	72.2%	同様	72.6%	同様
書く能力	36.7%	同様	37.5%	同様
読む能力	62.6%	同様	62.3%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等，青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆国語B（主として活用）の平均正答率は，すべての領域，観点で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成27年度の調査では，本市中学校では，「全国と同様な状況」です。

☆「表現の工夫について自分の考えをもつ」は，全国に比して「やや低い」傾向です。

- 学習指導要領の領域等では，「読むこと」では，全国に比して「やや高い」結果です。
- その他の領域等では，いずれも全国，全道ともに「同様」な結果です。
- 評価の観点では，すべての項目で全国，全道に比して「同様」な結果です。

(7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1ー	ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する	状況に応じて，資料を活用して話す	話すこと・聞くこと	やや高い	73.2%

(8) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領 の領域等	全国との比較	全国平均正答率
3一	「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ	読むこと	やや低い	88.6%
3二	「あたりは・・・良かった。」の説明として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ	読むこと	やや低い	82.6%

(9) 国語Bにおける無解答率について

- 設問番号「3三」（文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く）では、全国に比して高い結果でした。
- 国語Bにおける他の問題の無解答率は、全国に比して同様な結果でした。

注）「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

(10) 数学Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
数と式	67.7%	同様	65.6%	同様
図形	63.4%	やや高い	62.5%	やや高い
関数	61.7%	同様	60.9%	同様
資料の活用	63.0%	同様	62.1%	同様
数学的な技能	65.0%	同様	63.2%	同様
数量や図形などについての知識・理解	63.9%	同様	62.9%	同様

注）黒字は学習指導要領の領域等，青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆数学A（主として知識）の平均正答率は、「図形」領域で全国、全道に比して「やや高い」状況で、他のすべての領域、観点で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。

☆「立体の体積に関する」問題は、全国に比してやや高いです。

☆「連続する整数の性質を文字を用いた式で表す」問題は、全国に比して低いです。

- 学習指導要領の領域等では、「読むこと」で、全国に比して「やや高い」結果です。
- その他の領域等では、いずれも全国、全道ともに「同様」な結果です。
- 評価の観点では、すべての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。

(11) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
5(4)	与えられた式で体積が求められる立体をすべて選ぶ	与えられた式を用いて体積を求めることができる立体を理解している	図形	やや高い	56.4%
6(1)	同位角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	同位角の意味を理解している	図形	やや高い	80.3%
7(2)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	図形	やや高い	76.1%
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性和意味を理解している。	図形	やや高い	25.8%
11	一次関数の表から、 x と y の関係を表した式を選ぶ	一次関数の表から、 x と y の関係を式で表すことができる	関数	やや高い	54.7%

(12) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領 の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2(1)	$5x - x$ を計算する	一次式の減法ができる	数と式	やや低い	85.3%
2(4)	連続する3つの整数のうち最も小さい整数を n とするとき、それらの和が中央の整数の3倍になることを、 n を用いた式で表す	文字を用いた式で数量の関係を説明するための構想を理解している	数と式	やや低い	85.7%

(13) 数学Aにおける無解答率について

□ 数学Aにおける無解答率は、すべての問題において全国に比して同様な結果でした。

注) 「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

(14) 数学Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
数と式	63.2%	やや低い	60.2%	やや低い
図形	39.0%	やや高い	37.1%	やや高い
関数	30.7%	同様	29.3%	同様
資料の活用	31.2%	同様	30.2%	やや高い
数学的な見方や考え方	42.8%	同様	40.7%	やや高い

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

- ☆数学B（主として活用）の平均正答率は、「図形」領域で全国、全道に比して「やや高い」状況で、他のすべての領域、観点で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成27年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。
- ☆「割合を求める」問題は、全国に比してやや高いです。
- ☆「理由を説明する」は、できなかった傾向がややあります。

- 学習指導要領の領域等では、「図形」では、全国に比して「やや高い」結果です。また、「数と式」の説明を求められる問題は、全国に比して「やや低い」結果です。
- その他の領域等では、いずれも全国、全道ともに「同様」な結果です。
- 評価の観点では、すべての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。

(15) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
5(1)	1回目の調査で、落し物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を求める	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	資料の整理	やや高い	39.1%

(16) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2(2)	連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	数と式	やや低い	42.1%

(17) 数学Bにおける無解答率について

- 設問番号2(2)「連続する3つの整数が20, 21のとき, それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く」は, 全国に比してやや高い結果でした。
- 設問番号3(2)「四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法, 平行四辺形になるための条件を用いて説明する」は, 全国に比してやや高い結果でした。
- 設問番号4(2)「正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても, $AE = CF$ となることの証明を完成する」は, 全国に比してやや高い結果でした。
- 数学Bにおける他の問題の無解答率は, 全国に比して同様な結果でした。

注) 「無解答率」とは, 問題を取り組んでいて, 途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

(18) 理科の全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
第1分野物理的領域	48.9%	やや高い	48.6%	やや高い
第1分野化学的領域	62.6%	同様	62.1%	同様
第2分野生物的領域	62.2%	やや高い	62.1%	やや高い
第2分野地学的領域	46.4%	やや高い	47.7%	やや高い
科学的な思考・表現	48.8%	同様	48.6%	同様
観察・実験の技能	46.8%	同様	47.1%	同様
自然事象についての知識・理解	70.6%	やや高い	72.7%	やや高い

注) 黒字は学習指導要領の領域等, 青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆理科の平均正答率は、「化学的領域」は全国、全道に比して「同様」な状況で、他の領域では、全国平均正答率との差が±3ポイント以上です。平成27年度の調査では本市中学校では、「全国よりやや高い」状況です。

☆観点では、「観察・実験の技能」が全道、全国に比して「同様」な結果です。他の観点「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」は、全道、全国に比して「やや高い」状況です。

- 学習指導要領の領域等では、全道、全国に比して「同様」「やや高い」結果です。
- 評価の観点では、全国、全道に比して「同様」「やや高い」結果です。

(19) 理科において平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1 (1)	塩化ナトリウムの化学式を選ぶ	塩化ナトリウムを化学式で表すことができる	第1分野 化学的領域	やや高い	79.6%
1 (3)	水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する	二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換では正確には量れない理由を説明することができる	第1分野 化学的領域	やや高い	53.0%
2 (1)	天気図から風力を読み取る	天気の記号から風力を読み取ることができる	第2分野 地学的領域	やや高い	77.9%
3 (2)	上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶ	一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験を計画することができる	第2分野 地学的領域	やや高い	39.0%

(20) 理科における無解答率について

- 設問番号1(1)濃度「濃度5%の塩化ナトリウム水溶液 100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める」では、全国に比してやや高い結果でした。
- 理科における他の問題の無解答率は、全国に比して同様な結果でした。

注)「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合をいいます。

V 質問紙調査の結果概要

(1) 小学校児童質問紙調査の結果から

- ☆ 北広島市の小学生は、将来の夢をもち、自分で計画的に勉強しています。
- ☆ 北広島市の小学生は、人の役に立つ人間になりたいと思っています。
- ☆ 北広島市の小学生は、理科や科学技術に関係している職業に就きたいと思っている児童が多いです。

①生活習慣

設問番号	質問事項	回答の基準	北広島市の回答率(%)	全国比	全道比
10	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。	3時間以上見ている	40.1	+4.0	-9.5
11	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。	3時間以上している	20.9	+3.9	-1.7
13	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。	1時間以上している	64.2	+1.7	+9.6
20	自分で計画を立てて勉強している	「している」「どちらかといえば、している」	69.8	+7.0	+5.7

- ・ 普段、テレビなどを見たりゲームをしている時間が全国に比して多くなっています。
- ・ 普段、1時間以上勉強していると回答した児童の割合が全国に比して高く、さらに自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国に比して高い状況です。

②自分の理解と周囲への意識

設問番号	質問事項	回答の基準	北広島市の回答率(%)	全国比	全道比
32	学校のきまりを守っている	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	95.1	+4.0	+5.1
33	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	96.0	+2.1	+3.2
34	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	96.5	+0.3	+0.5
35	人の役に立つ人間になりたいと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	65.4	+1.7	+2.3

- ・学校のきまりを守って生活をしていると回答した児童の割合が全国に比して高い状況です。
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思い、いじめは、どんな理由があってもいけないことと思っている児童の割合が全国に比して高い状況です。
- ・将来、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童の割合が全国に比して高い状況です。

③授業や教科の学習

設問番号	質問事項	回答の基準	北広島市の回答率(%)	全国比	全道比
41	授業のはじめに目標（めあて・ねらい）示されていたと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	87.0	+0.7	+5.9
42	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよくおこなっていたと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	77.8	+3.5	+6.6
43	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	87.1	±0.0	+0.1
48	国語の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	55.8	-5.3	-6.0
49	国語の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	95.1	+3.1	+2.8

50	国語の授業の内容はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	82.8	+0.8	+1.6
58	算数の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	64.6	-2.0	+0.1
59	算数の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	93.2	+0.1	+1.0
60	算数の授業はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	79.8	-2.2	+2.1
69	理科の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	89.9	+6.4	+4.3
70	理科の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	91.5	+4.6	+4.8
71	理科の授業の内容はよく分かる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	91.8	+3.9	+3.1
75	将来、理科や科学技術に関係する仕事に就きたい	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	31.2	+2.4	+3.6

- ・国語、算数、理科の授業は大切だと回答した児童の割合が全国に比して高い状況です。
- ・算数の勉強は好きだと回答した児童の割合がやや低いですが、国語、理科は好きだと回答した児童の割合はが全国に比して高い状況です。
- ・授業のはじめに目標が示され、授業の最後には振り返りをし、それらをノートにまとめていると回答した児童の割合が全国に比して高い状況です。
- ・将来、理科や科学技術に関係する仕事に就きたいと回答した児童の割合が全国に比して高い状況です。

(2) 中学校生徒質問紙調査の結果から

- ☆ 北広島市の中学生は、難しいことでも失敗を恐れず挑戦しようとしています。
- ☆ 北広島市の中学生は、友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意です。
- ☆ 北広島市の中学生は、新聞を読み、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えています。

①生活習慣

設問番号	質問事項	回答の基準	北広島市の回答率(%)	全国比	全道比
10	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。	3時間以上見ている	32.3	+1.8	±0
11	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。	3時間以上している	24.1	+3.6	-0.4
13	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。	1時間以上している	64.2	+1.7	+9.6
20	自分で計画を立てて勉強している	「している」「どちらかといえば、している」	50.5	+1.7	+1.5

- ・普段、テレビなどを見たりゲームをしている時間が全国に比してやや多くなっています。
- ・普段、1時間以上勉強していると回答した生徒の割合が全国に比して高く、さらに自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が全国に比して高い状況です。

②自分の理解と周囲への意識

設問番号	質問事項	回答の基準	北広島市の回答率(%)	全国比	全道比
28	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	33.7	+1.2	+2.8
30	新聞を読んでいますか	「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」	20.8	+2.0	+0.3

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答した生徒の割合が全国に比して高い状況です。
- ・新聞を読んでいると応えた生徒の割合が全国に比して高い状況です。

③授業や教科の学習

設問番号	質問事項	回答の基準	北広島市の回答率(%)	全国比	全道比
38	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	86.9	+2.0	+12.2
48	国語の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	64.0	+3.5	-0.2
49	国語の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	87.3	-2.6	-0.2
50	国語の授業の内容はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	75.3	+1.0	-1.1
51	読書は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	78.5	+10.6	+6.8
58	数学の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	47.2	-9.8	-6.6
59	数学の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	80.4	-2.4	-1.4
50	数学の授業の内容はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	59.6	-12.0	-0.4
69	理科の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	69.6	+8.7	+3.5
70	理科の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	68.9	-0.4	-1.1
71	理科の授業の内容はよく分かる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	71.5	+5.8	+0.7
75	将来、理科や科学技術に関係する仕事に就きたい	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	24.8	+1.7	+2.7

- ・国語、理科の授業は好きだと回答した生徒の割合が全国に比して高い状況です。
- ・読書が好きだと回答した生徒の割合が全国に比して高い状況です。
- ・数学の勉強が好き、大切だと応えた生徒の割合が全国に比してやや低い状況です。
また、授業の内容がよくわかると応えた生徒の割合も全国に比して低い状況です。
- ・理科の勉強が好きと応えた生徒の割合が全国に比して高い状況です。さらに、理科や科学技術に関係する仕事に就きたいと回答した生徒の割合が全国に比して高い状況です。

(3) 学校質問紙調査の結果から

◎学校の特徴的な取組

設問番号	質問事項	回答の基準	北広島市の回答率(%)	全国比	全道比
29	授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れている。	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0	+4.3	+5.8
30	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0	+9.1	+7.4
34	様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0	+7.9	+4.6

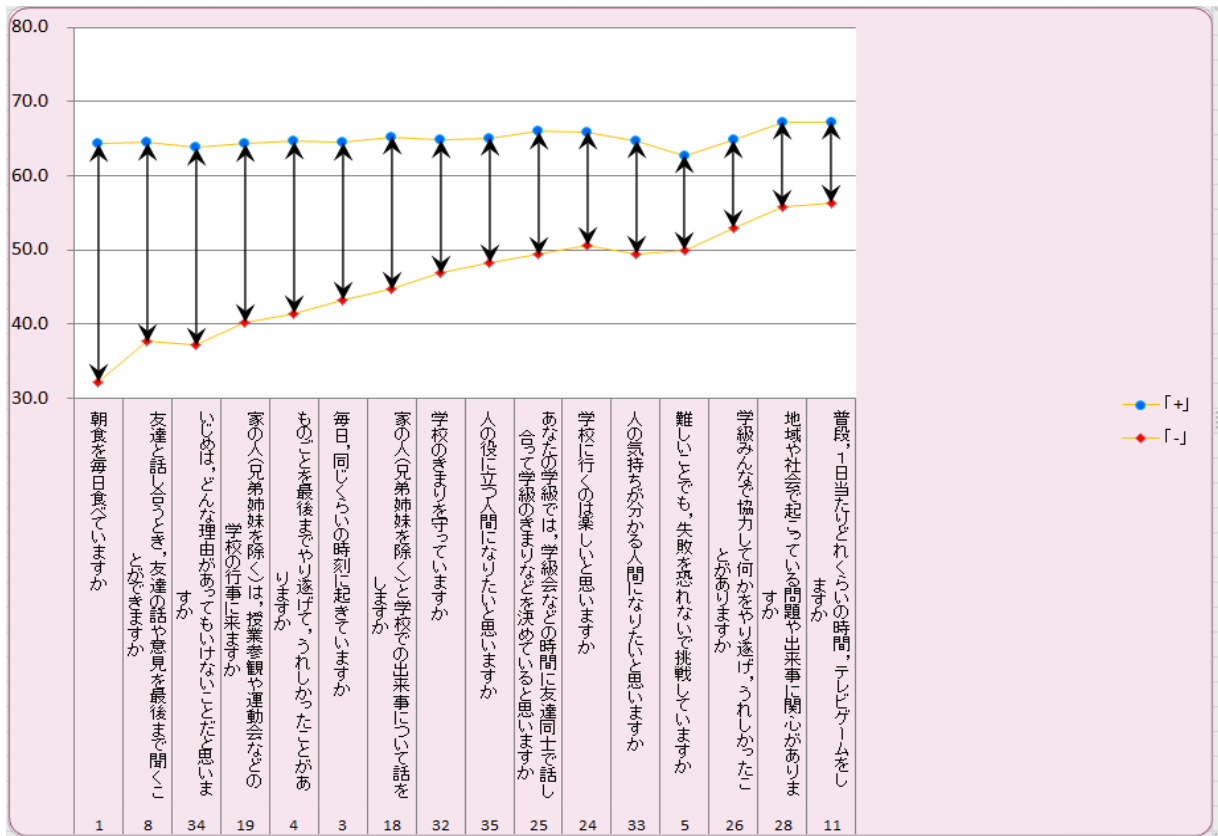
- ・授業の冒頭で目標を示す活動を計画的に取り組んでいると回答した学校の割合が全国に比して高い状況です。
- ・授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り組んでいると回答した学校の割合が全国に比して高い状況です。
- ・授業において、生徒の多様な考えを引き出したり、自らの思考を深化させる指導過程を工夫していると回答した学校の割合が全国に比して高い状況です。

VI クロス集計の結果概要

(1) 小学校児童クロス集計の結果から

① クロス集計とは

クロス集計とは、複数の項目を比べる統計的な手法の一つです。次の表は、北広島市内小学校6年生の全国学力・学習状況調査の教科の調査結果と児童質問紙の回答結果にどのような相関があるかを表しています。学力との相関が顕著な項目を以下に示します。



② グラフの見方

上のグラフで、「市平均」は、小学校国語A、国語B、算数A、算数B、理科の市内平均正答率の平均値を表しています。

「朝食を毎日食べていますか」の質問紙で、「食べている」と応えた児童の方が、小学校国語A、国語B、算数A、算数B、理科の平均正答率が高い傾向にあると読み取ることができます。

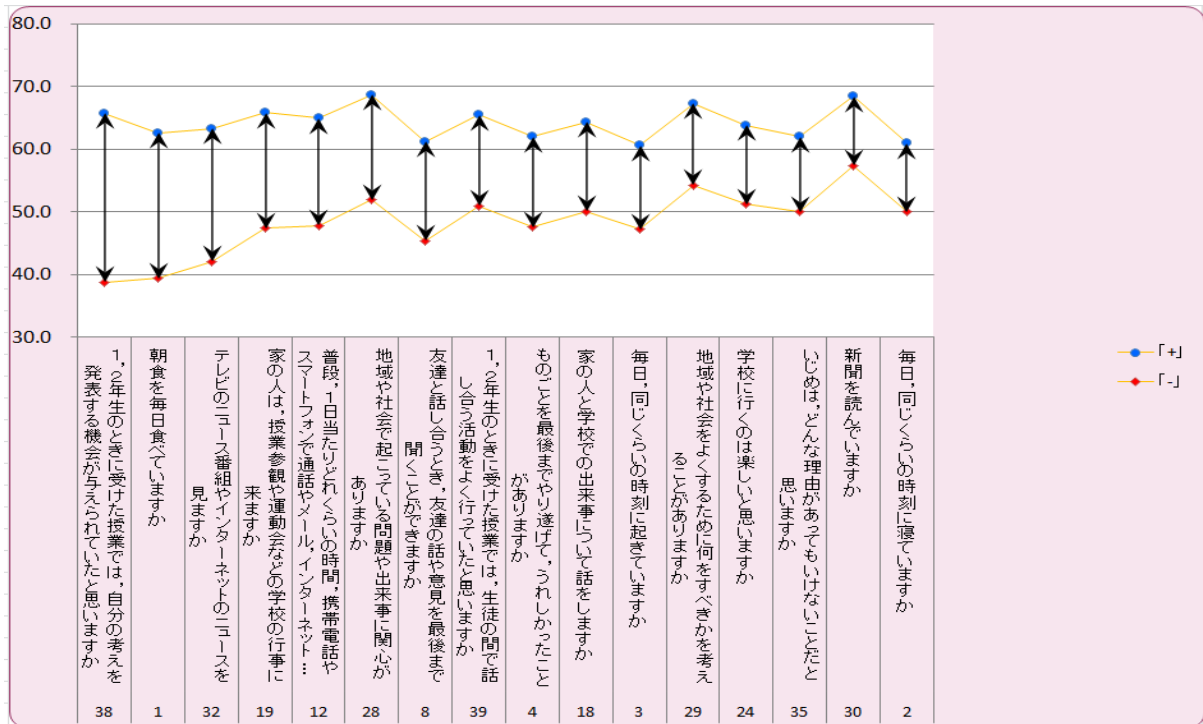
③ グラフから

- ◎ 家庭生活など、基本的な生活習慣が身につけていると、平均正答率が高い傾向にあるといえます。
- ◎ ゲームの時間が多いと、平均正答率が低い傾向にあるといえます。
- ◎ 学校生活では、学級の活動に積極的に参加するなど、様々な事柄に関心をもって、意欲的に取り組むことと、平均正答率の高さに関係があるといえます。

(2) 中学校生徒クロス集計の結果から

① クロス集計とは（再掲）

クロス集計とは、複数の項目を比べる統計的な手法の一つです。次の表は、北広島市内中学校3年生の全国学力・学習状況調査の教科の調査結果と生徒質問紙の回答結果にどのような相関があるかを表しています。学力との相関が顕著な項目を以下に示します。



② グラフの見方（再掲）

上のグラフで、「市平均」は、中学校国語A、国語B、数学A、数学B、理科の市内平均正答率の平均値を表しています。

「朝食を毎日食べていますか」の質問紙で、「食べている」と応えた生徒の方が、中学校国語A、国語B、数学A、数学B、理科の市内均正答率が高い傾向にあると読み取ることができます。

③ グラフから

- ◎ 中学生においても、家庭生活など、基本的な生活習慣が身についていると、平均正答率が高い傾向にあるといえます。
- ◎ ゲームの時間が多いと、平均正答率が低い傾向にあるといえます。
- ◎ 地域や社会の出来事に関心をもち、授業や学級の活動など様々な活動に積極的に参加することと、平均正答率の高さに関係があるといえます。

Ⅶ 総評

(1) 小学校学力調査の結果から

- ① 学力調査の結果から、本市児童の平均正答率は、国語A、国語B、算数A、算数B、理科ともに全国と「同様」な結果でした。
- ② 国語Aでは、領域では「読むこと」が全国に比して「やや高い」結果でした。他の領域は「同様」な結果でした。評価の観点では、「話す・聞く能力」が全国に比して「やや低い」結果となり、また、「読む能力」は全国に比して「やや高い」結果でした。

また、国語Bは、すべての領域・観点ともに全国に比して「同様」な結果でした。
- ③ 算数Aでは、すべての領域、観点ともに全国に比して「同様」な結果でした。また、算数Bでは、「数と計算」で全国に比して「やや高い」結果で、「数量関係」で全国に比して「やや低い」結果でした。「数量や図形についての知識・理解」は全国に比して「やや高い」結果でした。他の領域、観点ともに全国に比して「同様」な結果でした。
- ④ 理科では、領域では「A区分 物質」が全国に比して「やや高い」結果でした。他の領域では、全国に比して「同様」な結果でした。また、観点では「自然事象についての知識・理解」が全国に比して「やや高い」結果でした。その他の観点は、全国に比して「同様」な結果でした。

(2) 中学校学力調査の結果から

- ① 本市生徒の平均正答率は、国語A、国語B、数学A、数学Bでともに全国に比して「同様」な結果でした。理科では、全国に比して「やや高い」結果でした。
- ② 国語Aでは、領域では「読むこと」が全国に比して「やや高い」結果でした。他の領域では、全国に比して「同様」な結果でした。評価の観点では、すべての観点が全国に比して「同様」な結果でした。

また、国語Bでは、領域、観点ともにすべてで全国に比して「同様」な結果でした。
- ③ 数学Aでは、「図形」が全国に比して「やや高い」結果でした。その他の領域、観点ともに全国に比して「同様」な結果でした。また、数学Bでは、「数と式」が全国に比して「やや低い」結果でした。さらに、「図形」では全国に比して「やや

高い」結果で、「関数」及び「資料の活用」は全国に比して「同様」な結果でした。観点も、「同様」な結果でした。

- ④ 理科では、領域では「第1分野 物理的領域」，「第2分野 生物的領域」及び「第2分野 地学的領域」が全国に比して「やや高い」結果でした。さらに、「第1分野 化学的領域」では、全国に比して「同様」な結果でした。また、観点では「自然事象についての知識・理解」が全国に比して「やや高い」結果でした。その他の観点は、全国に比して「同様」な結果でした。

（3）小学校質問紙調査の結果から

- ① 普段、テレビを見たりゲームをする時間が全国に比して多いですが、自分で計画を立てて、1時間以上勉強する児童は、全国に比して多い結果でした。
- ② 人の気持ちが分かる人間になりたいと思ひ、そして人の役に立つ人間になりたいと思っている児童は、全国に比して多い結果でした。
- ③ 国語、算数、理科の授業が大切だと思っている児童は、全国に比して多い結果でした。
- ④ 将来、理科や科学技術に関係する仕事に就きたいと思っている児童は、全国に比して多い結果でした。

（4）中学校質問紙調査の結果から

- ① 普段、テレビを見たりゲームをする時間が全国に比して多いですが、中学生も自分で計画を立てて、1時間以上勉強する生徒は全国に比して多い結果でした。
- ② 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があり、新聞を読んでいる生徒が全国に比して多い結果でした。
- ③ 読書が好きと応えた生徒は、全国に比して多い結果でした。

（5）今後の北広島市としての取組

本年度の全国学力・学習状況調査の結果については、本市では概ね全国と同様でした。今後も、市内小中学校では、児童生徒の実態を的確に把握し、基礎的・基本的な内容を確実に身につけることができるよう授業について工夫と改善を一層重ねていきます。また、児童生徒の発達段階に応じて「自らを知り、よりよい自分を探る」キャリア教育の実践をとおして、「夢を抱き、実現に向けて努力を重ねる」人間形成に取り組みます。

これらのことは学校だけでは実現できないことから、これまで以上に学校、家庭、地域が連携して、本市児童生徒の「学力の向上」に努めていきます。